人文・自然・人間科学研究　No. 49, pp. 51-77　　March 2023

スティーヴン・ミールドマン
── 出版から見るエドワード六世時代

冨　田　爽　子

Steven Mierdman: Printer in the Age of Edward VI

Soko TOMITA

要　旨

エドワード六世時代は政府がプロテスタント政策へと舵を切り，時代が大きく動いた。政府はプロテスタント振興政策のプロパガンダとして，活版印刷を積極的に活用した。その結果，大陸に大きく後れを取っていた英国の印刷技術は急速な発展を遂げる。本論では時代の印刷業者の特徴を体現する人物として，アントワープ出身のスティーヴン・ミールドマンを取り上げる。熱心なプロテスタントであり，亡命先のロンドンで出版数第３位の大物印刷業者になる。アントワープで培った技術と人脈を活用し，印刷業界を牽引した。難易度の高い楽譜や外国語の印刷，図版の積極的な活用に高い技術力がうかがえる。来英３年足らずで有利な特許を取得し，ビジネスマンとしての能力も高かった。大物印刷業者の傾向である宗教書印刷が大勢を占めたが，『ユートピア』や『ランカスターとヨークの２大名門の統一』など知的な著作や，庶民に人気の暦なども印刷し，時代の流れを見ることに長けていた。このような印刷業者の活動は時代の流れを映す。大量の出版は書物が既に貴族や学者など，一部の限られた階層の所有物ではなくなったことを示している。

テューダー朝の中間に位置するエドワード六世時代は，プロテスタント振興と国民への書物の浸透がその大きな特徴である。この時代に培われた出版の発展が後の英国ルネサンスの土台となっており，ミールドマンはそのような時代を体現した印刷業者であった。

キーワード：エドワード六世，出版，スティーヴン・ミールドマン，図版印刷，外国語印刷

1. はじめに

印刷機の発明以来，印刷業者は時代を映す鏡の役割を果たしてきた。エドワード六世時代もその例にもれない。政府がプロテスタント振興政策に出版を活用したため，この時代には書物が 1156 版も刊行され，印刷・出版が急速に発展した[(1)]。それ故この時代の印刷業者に注目する意義は大きい。この出版の急増から，ヘンリー八世とエリザベス

一世の間に位置するこの時代が見えてくる。本論では時代の特徴を体現する印刷業者，アントワープ出身のスティーヴン・ミールドマン（fl. 1536–1559）を取り上げる[2]。エドワード時代を考える上で注目すべき人物だ。

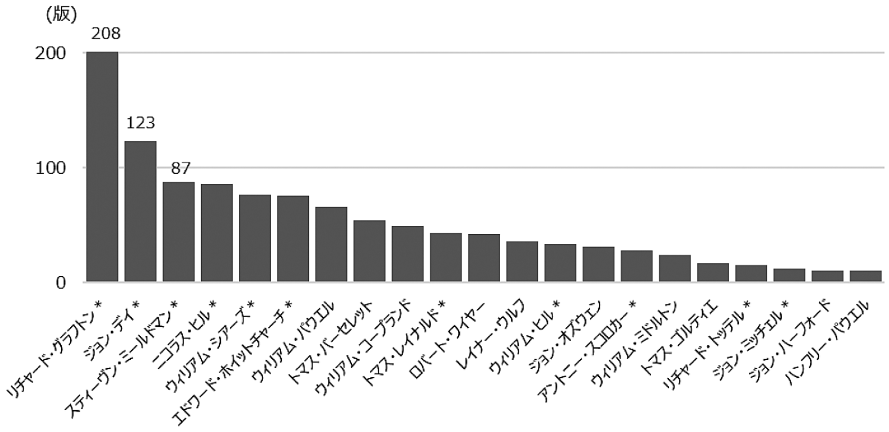


図 1　主要印刷業者　出版数（1547–1553）[3]

その理由は，まず印刷数が多いことだ。国王御用達印刷業者リチャード・グラフトンや，のちに書籍商組合長になるジョン・デイは別格として，ミールドマンは英国内で 87 版の書物を印刷し，出版数第 3 位の大物印刷業者にのし上がった。彼はアントワープでマテウス・クロムの工房に勤めていた頃から，固いプロテスタント信仰を持っていた。生涯 2 度の亡命を余儀なくされたが，一生その信仰を貫く。図版使用や活字の開発などに積極的に取り組み，技術面でも時代を牽引する印刷業者だった。

ミールドマンはアントワープ時代に印刷した著者や出版業者とのつながりを維持し，ロンドンでの活動に役立てた。オランダ人のコミュニティーに属し，外国人教会のメンバーにもなった。大陸から亡命してきた印刷業者の手も借りて，多くの書籍を印刷する。活版印刷がようやく軌道に乗り始めたこの時代では，業者仲間の人脈が重要な意味を持つ。ミールドマンにはグラフトンのように，政府の有力者との直接のつながりを示す情報はないが，ビジネスマンとしての手腕を発揮し，活動基盤を広げた。

政府はプロテスタント振興政策に特許を活用した。印刷というメディアを駆使し，時代を大きく動かした。大物印刷業者は特許を得て，特定のジャンルの印刷を独占する。ミールドマンも来英 3 年足らずで特許を取得し，順調にビジネスを構築した。ミールドマンを紐解くことで，エドワード時代がどのような時代だったかが見えてくる。この時代は宗教で社会が大きく揺れ動いた。印刷・出版業者は印刷が盛んな時代の空気を反映した。本論ではこの時代において印刷業者が映し出した時代の様相を見ていきたい。さ

らにテューダー朝でのエドワード時代の位置づけを明らかにしたい。

2. スティーヴン・ミールドマン

(1) 時代背景

ヘンリー七世から始まったテューダー朝は，まず宗教においてカトリックでありながらローマ教皇と決別して英国国教会を樹立したヘンリー八世，そしてプロテスタントのエドワード六世，次にカトリックのメアリー一世，そして英国国教会体制の基盤を固めたエリザベス一世と，王によってその宗教が変っていった時代である。激しく揺れ動いた時代であった。その中でエドワード時代ははっきりとプロテスタンティズムに傾き，大陸の宗教改革の大きなうねりの中に突入する。大陸のプロテスタントにとってエドワードの英国は活動の舞台と映った。新しい礼拝様式を歓迎しない者もいただろうが，英国人の信仰生活は短い間にすっかりその姿を変えたように見えた。英国はヨーロッパのプロテスタント宗教革命の中心地となる。大陸とは異なり政府主導の革命だったが，前半はサマセット公爵，後半はノーサンバーランド公爵による積極的なプロテスタント政策が推進された。

出版の歴史においても時代は大きく動いた。大陸では，既にアンドレア・ヴェサリウス の人体の解剖図など精巧な図版が印刷されていた[4]。それにひきかえ，英国の印刷出版は大陸よりかなり遅れていた。写本と異なり活版印刷の社会的地位はまだ低かった。静謐な修道院で 1 冊ずつ丁寧に仕上げる写本に比べ，活版印刷はヨースト・アマンが描いた「印刷師の木版画」，そしてハンス・ザックスの詩が想起させるインクにまみれた職人の仕事だった[5]。エドワードの時代に入り，新政府の寛大政策に応えるべく，大物印刷・出版業者を中心に多くの書物が生産される。プロテスタント振興政策の波に乗り，印刷技術は大きく発展する。大量の書物が巷に出回り，国民に書物への関心を引き起こした。さらにこの時代の識字率の向上が人々を書物に向かわせる。印刷出版業者は文化の運び手，媒体としての役割を担ったのだ。業者のほとんどはプロテスタントだったが，第一義的には商人で，儲けを念頭に書物を生産した。政府の方針に沿って活動しつつ，一般読者層の求めに絶えず気を配った。時代の関心の反映を心掛けたのだ。この時代に書物の位置づけが大きく変化する。その変化は文章にも表われていた。

大陸では 16 世紀前半に母国語による新しい文学形式が生まれた。俗語の台頭である。ラテン語に代わり，民衆の言葉で作品を書こうとする運動だ。イタリアではピエトロ・ベンボーが『俗語論』を出版して大きな影響を与え[6]，トスカーナ方言を共通言語とする流れにつながった。ドイツではマルティン・ルターのドイツ語訳聖書以前に，既に多くの翻訳がなされていたが，彼の聖書は高地ドイツ語の普及におおいに貢献した[7]。フ

ランスでは 1539 年のヴィレル＝コトレの勅令により，ラテン語に代わりフランス語が公用語となった。ラテン語の読めない人々が自国語で書かれた本を読むようになる。読者の増加が印刷出版を活性化させた。さらにプロテスタント運動の広がりから大量の文献が様々なヨーロッパ言語に訳された。翻訳書は大陸のいたるところで新しい読者を獲得する。新約聖書の俗語出版には目を見張るものがある。

書物は未だごく限られた人々のものであった英国でも，同じような現象が見られた。それまでは知的な教養書や公文書はほとんど国際語のラテン語で著されていた。プロテスタンティズム振興の一つの手段として出版の活用を考えた政府は，大陸でのこの流れに乗った。さらに政府の意図に応じる大物印刷・出版業者がいた。これらが結びついて英国でも翻訳書が多く出版されるようになる。俗語の普及は必然的に新しいタイプの文人の台頭を促した。1540 年代から 1560 年代にかけて翻訳家の活躍が顕著になる。時代の全出版物 1156 版のうち翻訳書は 345 版（29.8%）を占める。その多くを大物業者が担った。これがこの時代の出版業界の実状である。

庶民の周りには急速に書物が出現した。本が巷にあふれると人々の好奇心は刺激される。このような流れの中でエドワード時代には，社会に文化的・知的生産物が流入し出版されたのである。翻訳本は宗教書ばかりではない。デジデリウス・エラスムスの著書は『痴愚神礼賛』（STC 10500）など 28 版も出版され，そのすべてが英訳されている[8]。トマス・モアの『ユートピア』もこの時代に英訳された（STC 18094）。これらはラテン語からの翻訳だが，345 版のうち 210 版がラテン語以外の言語から訳されている。この数字は，明らかに俗語の書物の増加を意味する。当然翻訳者の需要が高まった。翻訳者は分かっているだけで，少なくとも 120 名いた。マイルズ・カヴァデイル，ウィリアム・ティンダルをはじめ聖職者，作家，学者など，知識階級が翻訳に携わった。表 1 が示すように翻訳者の中には印刷・出版業者もいる。

表 1　エドワード時代に翻訳を行った主な印刷業者

印刷業者	出版数	翻訳活動期間
アントニー・スコロカー	11 版	1547–1553
ウォルター・リン	8 版	1548–1550
リチャード・ジャッグ	4 版	1552–1553
ロバート・クロウリー	1 版	1549
トマス・バーセレット	1 版	1550
ロバート・ワイヤー	1 版	1549
トマス・レイナルド	1 版	1551
スティーヴン・ミールドマン	1 版	1553

彼らは翻訳に必要な語学力と高い知性を備えており，みな大物印刷業者だった[9]。

印刷術の発明の最初期から印刷業者は学者や文人を雇い，翻訳や広告文の作成を任せていた。また序文のための詩や献呈文も書かせていた。印刷工房にとって欠かせない重要な編集業務である。表 1 の印刷業者は，製造する書物の内容にまで踏み込んで翻訳に携わっていたのだ。この時代の印刷業者の中には，上述のインクにまみれた職人であるにとどまらず，翻訳をこなす者もいたのである。

一方で，16 世紀の初頭新しい印刷技術が普及するにつれ，印刷をことさら軽蔑する風潮が生まれた[10]。印刷の質が写本より劣っていたことが最大の理由だが，機械による大量印刷への違和感とやっかみもあった。そのような流れの中で印刷業者の翻訳活動は，印刷に対する低いイメージからの脱却に寄与したと考える。この時代は書物や印刷出版の社会的評価が変った時代なのだ。ミールドマンもオランダ語翻訳を試みている[11]。

⑵　ミールドマンについて

a．アントワープ時代（*c.* 1543–*c.* 1547）

ミールドマンは，アルプスの北側の最大の商業中心地，また宗教論争の本拠地だったアントワープの印刷業者である。反体制側の人物だった。1559 年にドイツのエムデンで亡くなるまで，一貫してプロテスタント書物の印刷を行った。1540 年頃親方クロムの工房で働き始め，1543 年アントワープの自由市民として認められる。ほどなくして彼の名前も奥付に印字されるようになった。親方の妹エリザベス と結婚し，次第に仕事を引き継いで行く。ミールドマンの技術力と意欲的な仕事が高く評価されたのだ。

宗教改革勃発から 20 年余りの間，英語のプロテスタント文献は海外，ほとんどはアントワープで印刷されていた。大陸の業者には儲けが期待できる市場だったのだ。出版物には英国から大陸へ逃がれた急進的改革派の著書や，スイスの宗教改革者ヨーハン・ハインリッヒ・ブリンガーのパンフレットなども含まれる。これらはオランダ本よりその主張が過激だった。当時アントワープで英国向け出版を行った業者は，14 人もいた[12]。クロムとミールドマンも英国を視野に印刷した。彼らの英語本はもちろんプロテスタントの著作だ。

ミールドマンが来英以前クロムと共同で，あるいは単独で出版した書籍は少なくとも 42 版あることが今回の調査で明らかになった。うち標題紙や奥付にどちらかの名前が記載されているのは約半数。その他の本はタイポグラフィーの観点からふたりの作品とされる。

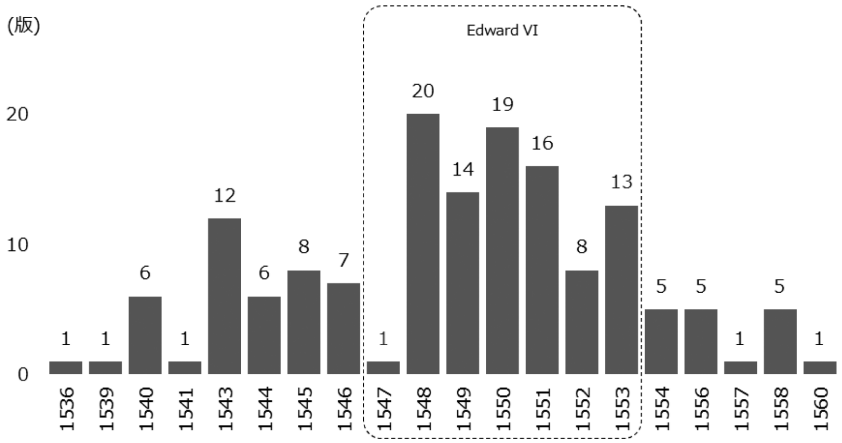


図 2　スティーヴン・ミールドマンの印刷数

ミールドマンが精力的に印刷を始めたのは 1543 年以降だ[13]。コリン・クレアはミールドマンがクロムの活字などを使用していることから，1543 年にクロムのビジネスを引き継いだとする[14]。

ミールドマンは初めから印刷をプロテスタンティズム浸透の手段と捉えていた。したがってプロテスタントの教えを広めるために，英国向けの印刷にも積極的に関わった[15]。調査の結果，アントワープ時代にクロム とミールドマンが印刷した 120 版のうち，英語で出版されたのが 30 版，多国語が 1 版[16]，オランダ語以外が少なくとも 26 版ある。つまり英語の書物はふたりのアントワープでの総生産の 1/4 を占めていた。著者ではジョン・フリス（STC 11382, 11390），ブリンガー[17]，ジョン・ベイル（STC 1296.5, 1270），エラスムス[18] とプロテスタントの旗手が名を連ね，聖書ではカヴァデイルが 11 版[19]，ティンダルも 4 版出版した[20]。ジョージ・ジョイのカトリック攻撃の冊子（STC 14828）もあり，エラスムスの英訳も 2 版（STC 2848, 10488）ある。

ミールドマンが本格的に印刷を開始した頃，大陸ではカール五世がプロテスタントへの規制を強めた。1543 年にスペイン人のフランシスコ・エンジナスがギリシャ語からスペイン語に翻訳した新約聖書に，ミールドマンは自分の名を奥付に記して出版した（USTC 440059, 440647）。エンジナスは聖書の翻訳を禁ずる布告に違反した罪で投獄，聖書は焚書となった。ミールドマンは印刷中止を言い渡され，在庫の販売を止められたばかりか，既に書店に卸したコピーも取り戻すよう命ぜられた[21]。

1544 年公布の勅令は，低地諸国に福音主義の教義を根づかせまいとしたものだ。スペイン語，英語，イタリア語での出版を禁止し，違反者は処罰の対象となる[22]。翌 1545 年にはミールドマンの同業者ヤーコプ・ファン・リースフェルトが斬首された[23]。さらに 1546 年 6 月の勅令によりプロテスタントの出版活動は完全に抑圧され，背いた者

には死刑が科せられることとなる。出版前に審査と認可を受けない書物も処罰の対象とされた[24]。これで大陸の福音主義印刷は終焉を迎える。ミールドマンに対し，具体的にどのような処分が検討されたかは定かではない。固い信仰のもと彼は自分の目録と活字を携え，多くの亡命者とともに英国に渡った。

エンジナスがこの聖書の印刷をクロムに依頼した際，クロムは「喜んでお引き受けしましょう。と申しますのは，私は自分のためよりも人の役に立つ仕事がしたいのです。儲けや，人の中傷などは気にしておりません。」と答えたという[25]。ロンドンでのミールドマンの活動を考えると，ミールドマンはクロムから仕事とともにこの意志も継いだと考えられる。

b. ロンドン時代（*c.* 1547–1553）

ロンドンに渡ったミールドマンは，オランダ人が多く住むリビングスゲイトに居を構え印刷を開始した。1547 年は 1 版のみの印刷だったが，翌 1548 年には 20 版と急増する。アントワープからの知人ベイル（STC 1274a, 1297）をはじめ，ロバート・クロウリー（STC 6083），フリス（STC 11383），ルター[26]，フィリップ・メランヒトン（STC 17795, 17796），ウィリアム・ターナー（STC 24359）など，時代を代表するプロテスタントの著作を次々と印刷した。いずれも 100〜200 ページの中冊子で，リチャード・ジャッグ，デイ，ウィリアム・シアーズ，リンといった出版業者のための印刷だった。ミールドマンは既にこれら大物出版業者との関係を築いていたのだ。オランダ人の地域社会には印刷工が多くいた。この年印刷した書物 20 版のうち 18 版までが英語であり，アントワープでの実績が評価されたことがわかる。ミールドマンはこれらの職人や印刷工と分担し，多くの書物を印刷した[27]。

ミールドマンの来英は亡命という不本意なものだった。来英時期は 1547–1548 年頃と推測されているが，正確なことは分からない。現在分かっているのは，1547 年に，メランヒトンがヘンリー八世宛てに書いた 6 箇条廃止要求の書簡の英語版を，ミールドマンが印刷したことだけだ（STC 17789）。奥付には 5 月 18 日という日付が印字され，出版地はウェーゼル（アントワープ）とある[28]。1547 年の印刷数の少なさと，1548 年の印刷の急増から 1548 年には既に英国で活動していたと考えるのが自然だ。

表 2　ロンドン時代にミールドマンが印刷した書物の出版者一覧（1547–1553）

（版）

出版者	1547年	1548年	1549年	1550年	1551年	1552年	1553年	計
スティーヴン・ミールドマン	1	2	1	4	4	1	1	14
リチャード・ジャッグ		7	1	1	2		3	14
ジョン・デイ		4	2	3	3	1		13
ウォルター・リン		6	1	5				12
ヒュー・シングルトン		1	1	2			2	6
エドワード・ホイットチャーチ			2				1	3
ジョン・ベイル			1		1			2
リチャード・グラフトン			1	1				2
ロバート・クロウリー			1	1				2
ウィリアム・オーウェン					1		1	2
ジョン・ギュプキン					2			2
アンドルー・ヘスター				1	1			2
エイブラハム・ヴィール					2			2
ウィリアム・リッデル						2		2
ジョン・ワイト							2	2
リチャード・フォスター			1					1
ジョージ・ジョイ			1					1
ロバート・トイ					1			1
ジョン・ウォリー						1		1
ヘンリー・サットン							1	1

表 2 はミールドマンが 1547 年以降に印刷した書物を出版した業者の一覧である。来英当初は他の印刷業者の下請けをした可能性もあるが，既に述べたとおり，1548 年には 20 版も印刷している[29]。同郷のアルフォンサス・ラートの『暦と予測』を片面印刷の大判紙で印刷し，ジャッグが出版したものもある（図 3. STC 470, 470.1）。暦や予言は当時の人々に人気があった。ミールドマンの名前はないが，クロムが輸出用の本に用いたドラゴンの尻尾の中に欠けた月が収まっている印刷者意匠に酷似したものを印刷しているので，ミールドマンの印刷と考えられる。

EEBO の画像。クラリベイト社より掲載許可取得済み。

図 3 『暦と予測』 STC 470. A1[r].

表 2 から来英早々のミールドマンをジャッグ，デイ，リン，ヒュー・シングルトンがサポートしたのは明らかだ。ジャッグはミールドマンの印刷した本をこの年だけで 7 版出版しており[30]，デイは 4 版出版した[31]。リンは同郷で，ロンドンでも近隣の間柄であり，ミールドマンが印刷した 6 版を出版した[32]。うち半数はルターやウルバーヌス・レギウスの著作をリン自身が訳したものだ。リンにとっては思い入れのある書物をミールドマンに任せたのだ。シングルトンも 1 版出版した（STC 11235）。当時の有力な出版業者は密接な連絡網を張り巡らし，情報を共有していた。英語本密輸などを通じてミールドマンの名も知れ渡っていたに違いない。彼の英国での印刷は順調なスタートを切った。リンは 1550 年に出版をやめたが，他の 3 人は時代を通してミールドマンの印刷物を出版し続ける。ミールドマンも落ち着くにつれ，自分で出版する数が増えた。次第に数多くの出版業者が彼の製品を出版するようになる。彼は人脈を広げ順調な活動を繰り広げた。

図 2 が示すように，今回の調査でミールドマンはアントワープ時代には 42 版，ロンドン時代には 91 版，エムデン時代には 17 版を印刷した。ロンドン時代が彼の活動のピークだったことがわかる。

c. エムデン時代（1554–1559）

メアリー一世の勅令により，ミールドマンはエムデンへ亡命した。ブラディー・メアリーの異名を持つメアリーはカトリック政策をとり，そのプロテスタント弾圧はすさまじかった。トマス・クランマー，ヒュー・ラティマー，ニコラス・リドリーは火刑に処

され，女性や子供を含む約 300 人が処刑された。それは多くの印刷業者の海外流出につながる。ミールドマンもそのひとりだ。エドワード時代に活躍した印刷業者は国籍を問わず，憂き目を見ることになる。英国のプロテスタントには 2 つの選択肢しかなかった。固くなに信仰を通して殉教するか[33]，沈黙を守るかであった[34]。英国にとどまった英国人業者も満足に印刷ができなくなった。

表 3　エドワード時代に活躍した印刷業者のメアリー時代の活動状況

印刷業者	メアリー時代の活動状況
リチャード・グラフトン	国王御用達の職解任。印刷活動中止。
ジョン・デイ	プロテスタント本の流布に努めたかどで，投獄（1554 年 10 月-1555 年上旬）。エリザベス時代で活躍。
ウィリアム・シアーズ	投獄。以降はプロテスタント色の薄い書物を細々と印刷。エリザベス時代で活躍。
エドワード・ホイットチャーチ	印刷業休業。
ウィリアム・パウエル	僅かに 10 版程度印刷継続。
トマス・パーセレット	1555 年に死亡。
ウィリアム・コープランド	印刷継続。1556 年にクランマーの宗旨撤回を印刷して枢密院に召喚，全てのコピーの提出，破棄を命ぜられた。エリザベス時代で活躍。
トマス・レイナルド	1552 年以降印刷せず。
レイナー・ウルフ	3 版のみ印刷。エリザベス時代で活躍。
リチャード・ジャッグ	3 版のみ出版。エリザベス時代で活躍。
ヒュー・シングルトン	デイと共に投獄。後にドイツのウェーゼルへ亡命。エリザベス時代にロンドンへ戻る。

外国人は国外退去を余儀なくされる。オランダ人のニコラス・ヒルはミールドマンと共にエムデンへ渡るが，かの地では 2 版しか出版していない[35]。エムデンでミールドマンはヤン・ガイリアートに助けられ，主としてオランダ語の宗教書印刷や翻訳を続ける。しかし彼の出版数も激減した。ミールドマンは時代の流れの中で，印刷業者の運・不運の両方を味わったのだ。

メアリー一世の時代になって，ヘンリー八世時代の伝統的な信仰生活への復帰を歓迎する者もいた。しかし 6 年半に亘るプロテスタンティズムによる集中的，根本的な改革や，時代の流れに感化された人々の意識を元に戻すことはできなかった。それでもプロテスタント書物の出版は，表向きには終焉を迎える。エドワード時代の全出版数の 59.0 %を占めていたプロテスタント本の出版ができなくなったのだ[36]。カトリック本の出版が始まるが，エドワード時代のプロテスタント本ほどの勢いはなかった。そしてミー

ルドマンの活動もロンドン時代でピークを過ぎたのだ。

⑶　ミールドマンの特徴

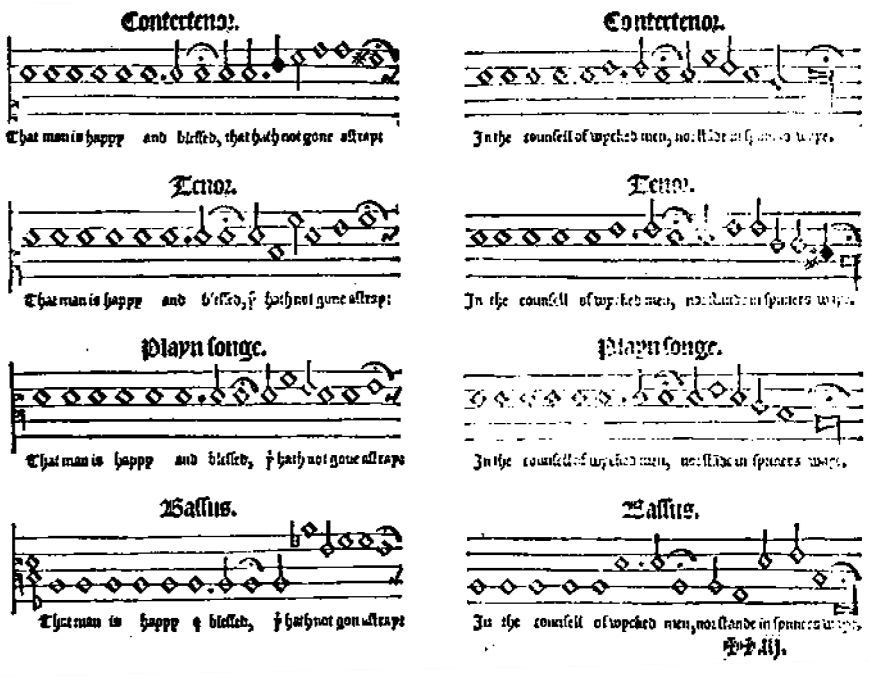
わずか6年半で時代を代表する印刷業者にのし上がったミールドマンの特徴とは何であったのか？　彼の成功の鍵として5つの特徴，すなわち人脈，特許取得，図版の積極的使用，外国語印刷，出版数の多さを挙げることができる。

a．人脈

まずミールドマンのビジネスマンとしての側面に注目する必要がある。エドワード時代では有力者との人脈なしに印刷・出版ビジネスでは成功できなかった。亡命者ミールドマンは来英時，英国の有力者との直接的なつながりはなかった筈である。彼がビジネスマンとして優秀だったのは，自分の人脈，すなわち有力者とつながりを持つ人物との関係を，最大限に活かした点にある。例えば，「イギリス植物学の父」と呼ばれたターナーとの関係を挙げよう。ターナーはイタリアで薬学の学位を取り，エムデン公爵の主治医となった。ミールドマンはターナーのカトリック教会攻撃の小冊子をアントワープで印刷している（STC 24354）[37]。英国に戻ったターナーはサマセット公爵の主治医となって公爵の屋敷に住み，手厚い保護を受けていた[38]。ミールドマンは来英早々の1548年にターナーの『植物誌』を印刷する（STC 24359）[39]。オクテイヴォで128ページの中冊子である。植物の名前をABC順に並べ，ギリシャ語，ラテン語，英語，ドイツ語，フランス語で紹介している。この表記法はターナーの発明ではないが，時代の最先端を行くものだ。ターナーはこの本をサマセットに献呈した。当時の英国では外国語の印刷ができる業者は限られていた。ミールドマンはアントワープで培ったターナーとの関係を活かすことが出来たのだ。サマセットにも自分の存在と実力をアピールできた。1553年までにターナーは8版の著書を出版したが，その半分はミールドマンの印刷だ[40]。ターナーとサマセットとのつながりは無視できない。

初期英国演劇の担い手であり，論争的なプロテスタントの牧師ベイルとの関係もミールドマンにとっては重要な人脈だった。アントワープ時代からの仲間である。エドワード時代の出版作品13版のうち9版をミールドマンが印刷した[41]。いずれも激しい教皇制度批判だ。プロテスタント時代の到来でふたりは一層きずなを深め，出版を重ねた。

急進的な宗教改革論者として名高い牧師クロウリーは，詩篇をヘブライ語から英訳し楽譜付きのマニフィカトと雅歌などの抜粋を添えた。



EEBO の画像。クラリベイト社より掲載許可取得済み。

図 4　クロウリー翻訳の『詩編』 STC 2725. ✠✠2^{v}, ✠✠3^{r}.

この 360 ページに及ぶ大著はグラフトンとミールドマンの共同印刷である。ミールドマンはさらにクロウリーの小冊子を 2 版印刷する（STC 6085, 6096）。彼は技術的難易度の高い印刷を手掛けた。それらの成果が有力者との人脈につながったと考える[42]。ミールドマンは自身の技術力で人脈を開拓し，時代の先頭に立ったのだ。

b. 特許取得

印刷・出版業者と有力者とのつながりを示すものとして，特許の取得がある。大物印刷業者は何らかの特許を得て，特定のジャンルの印刷を独占した。特許の取得は大物印刷業者の証だった。特許を得た業者は中小業者に下請け発注を行う。注文を確実にこなすためだが，結果的に中小印刷業者の救済にもつながった。

ミールドマンは 1550 年 7 月 26 日，王室から 5 年間の特許を得，まだ未出版の書物の印刷と，国籍を問わず職人を雇うことが認められた[43]。英国での実績が認められたのだ。この特許は書物のジャンルを限定しておらず，他の同業者より特に有利な内容だった。ミールドマンは優遇されていたと考える。来英 3 年で実力が認められた証だ。これは驚異的な速さである。既に有力者との強い関係を築いていたと考える。

政府はプロテスタント振興に特許を活用し，印刷・出版の活性化に大きな影響を与え

た。大物印刷業者の特許取得状況を見ると，1544 年にエドワード・ホイットチャーチはグラフトンと共に祈祷書を印刷する特許を得ている（STC 15835）。ジャッグは 1552 年に国王の許可を得て英訳聖書を出版した（STC 2867）。リチャード・トッテルは 1552 年に法律書印刷の特許を獲得し，精力的に法律書を出版した[44]。N. ヒルが特許を得たという記録は見つかっていない。1547 年にレイナー・ウルフはラテン語，ギリシャ語，ヘブライ語の書物を印刷する国王御用達の印刷業者に指定される。ヘンリー八世の時代に国王の書簡を大陸に届けるなどしており[45]，ウルフには宮廷との強い結びつきがあった。一方デイは 1553 年になってようやくトマス・ビーコンとジョン・ポーネットの著書を印刷する王の特許を得た。デイにとっては初めての特許獲得である[46]。彼は既に 1549 年と 1550 年にシアーズ と共にアポクリファを含む聖書の英訳版を次々に出版しているにもかかわらず（STC 2087.2–2087.5），特許を得ることはなかった。ミールドマンはそのデイよりも早く，しかも著者やジャンルを限定されることなく特許を取得している。特許を取得するには実力だけではなく，政府への相当な働きかけが必要だったと考える。ミールドマンはターナーのような人物を通して，政府との絆を深めていたに違いない。

ポーネットがカテキズムをラテン語と英語で編纂した際に，ポーネットの印刷特許を得たばかりのデイは，早速この権利を行使しようとした。ところが，ラテン語著作の国王御用達印刷業者だったウルフが異議を唱える。結局ジョン・ダドリーのとりなしでラテン語版はウルフが（STC 4807–4810），英語版はデイが印刷することで落ち着いた（STC 4812）。特許とはそれほど重要なことだった。その特許をミールドマンは来英 3 年で，しかも非常に有利な内容で取得したのだ。ビジネスマンとしての卓越した才能である。このようにして彼は印刷業界の表舞台に躍り出たのだ。

c. 図版の使用

同時代の印刷業者に比べ，ミールドマンは挿絵の使用頻度・量が圧倒的に多い。書物を魅力的にする試みは印刷の第 1 世代から行われていた。木版画や挿絵は読者の鑑賞眼を満足させる装飾であり，内容を視覚的に伝えることの有効性はよく理解されていた。ウィリアム・キャクストンも活版印刷に木版画を用いている[47]。16 世紀になると印刷本に標題紙がつけられるようになった。特に聖書では，図版はふんだんに用いられた。ミールドマンの親方クロムも木版画や銅版画の図版を積極的に用いた。多いものでは 1 冊の中に 100〜200 カットもある。例として，グラフトンとホイットチャーチがクロムに印刷を依頼したマシュー訳聖書（STC 2066）を挙げておく[48]。

EEBO の画像。クラリベイト社より掲載許可取得済み。

図 5　マシュー訳聖書　STC 2066. *1r.

標題紙の全面銅版画はエアハルト・アルトドルファーによるとされており，その挿絵は1533 年にリューベックで出版されたルター聖書から集めた[49]。この種の木版画をデザインして作製するには，高度な技術や芸術性，そして高額な費用が必要だった。また木版画や挿絵は印刷業者間で広く貸し借りが行われており，色々な書物に再使用されていた[50]。しかしそれには広い人脈と資金が必要であり，クロムにはそれが可能だったの

である。

表 4　クロムの印刷した主な木版画挿絵

出版年	説明
1536 年	**STC2832, 2833, 2834. ティンダル訳新約聖書 DMH 19, 20, 21.** 多数のカット使用。3 版とも福音書では同じ挿絵を使用。マタイ・マルコ・ルカ・ヨハネと使徒たちのカットは異なる。これ以前の聖書で用いられたカットも再使用されている。ハンス・ホルバインやアドリアン・ケンペ・デ・ボッホートのカットとされているものを含む。
1537 年	**STC2066. マシュー訳聖書 DMH 34.** グラフトンとホイットチャーチのために印刷したもので標題紙とアダムとイヴの全面銅版画はルター聖書（リューベック，1533 年）に酷似している。91 枚の挿絵が，色々な出典から集められている。
1538 年	**USTC 5567 フランス語新約聖書** リーヴェン・デ・ウィッテの木版画。
1538 年	**STC 2836 カヴァデイル訳新約聖書 DMH 40.** 最も図版が多く（162 カット），また最も興味をそそり，大きな影響力のあった英訳聖書。前年にクロムが印刷した『イエス・キリストの生涯』で，リーヴェン・デ・ウィッテがデザインした挿絵の再使用。多数の章末飾りカットあり。
1538 年	**STC 2836.5 カヴァデイル訳新約聖書 DMH 42.** STC 2836 とほぼ同じだが，デ・ウィッテの 3 版画が削除され，別の 2 版画が追加されている。
1538 年	**STC 2837 カヴァデイル訳新約聖書 DMH 41.** 全ページ大の「パトモスの聖ヨハネ」の木版画あり。
1539 年	**STC 2842 カヴァデイル訳新約聖書 DMH 48.** リーヴェン・デ・ウィッテの木版画多数あり。STC 2837 と似ている。
1540 年	**USTC 410397 アンドレアス・オシアンダーの 4 福音書** リーヴェン・デ・ウィッテの木版画。USTC 5567, 400676 で用いられている版画と同じ。
1541 年	**USTC 400676 ウィレム・デ・ブランテヘムのキリストの生涯について** リーヴェン・デ・ウィッテの木版画。USTC 5567, 410397 で用いられている版画と同じ。
1542 年	**STC 2848 エラスムスの釈義付きのティンダル訳新約聖書 DMH 26.** 福音書，使徒行伝，ヨハネの黙示録の内容を可視化した版画は，1537 年にパリでポケット版で出版されたラテン語新約聖書の挿絵に酷似している。
1543 年	**USTC 440059 フランシスコ・エンジナスのスペイン語の新約聖** クロムとミールドマンが印刷したと思われるが，クロムはこの年に亡くなったという説もあり，奥付にはミールドマンの名が印字されている。ローマン字体できれいに印刷され，ルカ，ヨハネ，パウロ，ヤコブ，ペテロらの木版画が挿入されている。

表 4 はクロムが木版画を用いた主な印刷物の一覧である。クロムは同時代の印刷業者の中でも特に意欲的に図版を活用した。彼の工房にいたミールドマンはその影響を大きく受けた。1545 年にミールドマンが単独で印刷したベイルの『ヨハネの黙示録釈義』（STC 1296.5）では，黙示録の内容を描いた 19 カットが 24 回にわたって挿入されている。標題紙にはヨハネが流刑にされたエーゲ海のパトモスで黙示録を執筆するカットが

ある。ドイツ人ハンス・ゼーバルト・ベーハムのデザインによるものだが，掲載の経緯は明らかではない。絵も彫刻もあまり上等とは言えない。

クロムとミールドマンの図版のクオリティの差は，腕のよい版画家を起用できたか，優れた図版を入手できたかの違いのようだ。クロムは既に大物であり，それが可能だった。一方ミールドマンはまだ人脈もなく，優れた図版を入手出来なかった。つまりミールドマンにとっては，図版の使用はまだ試行錯誤の段階だったと考える。このアントワープ時代の下積みが，後のミールドマンの図版へのこだわりにつながる。

英国の大物印刷業者もすでに図版を使用していた。1539 年にグラフトンとホイットチャーチが出版したグレート・バイブルは有名な逸話つきの書物だ[51]。図版入りの聖書を印刷する技術とノウハウを，ふたりは既に熟知していたのである[52]。大物印刷業者は，開始時期や頻度に多少の差はあるものの，みな 1540 年前後から図版を用いていた。彼らは図版を多用した大陸の書物をよく知っており，自らも図版入りの書物を印刷した。彼らはミールドマンよりもよほど先を行っていた。標題紙やコンパートメント，装飾イニシャル，印刷者意匠など，視覚的効果を意識した工夫が見られる。

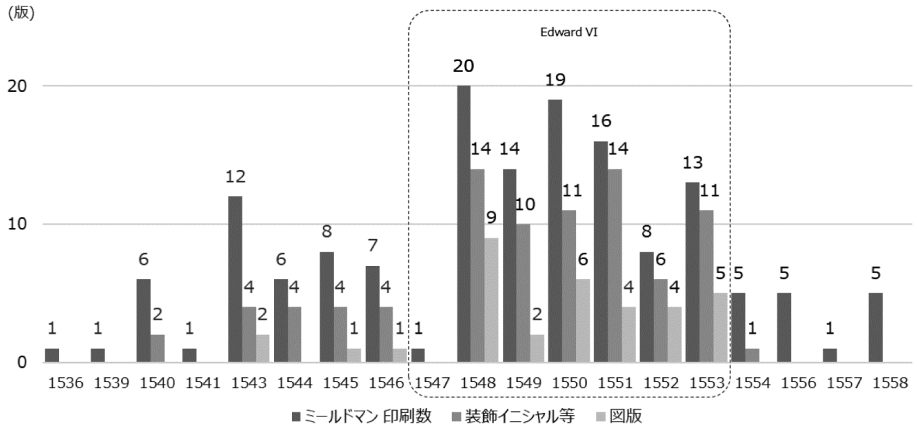
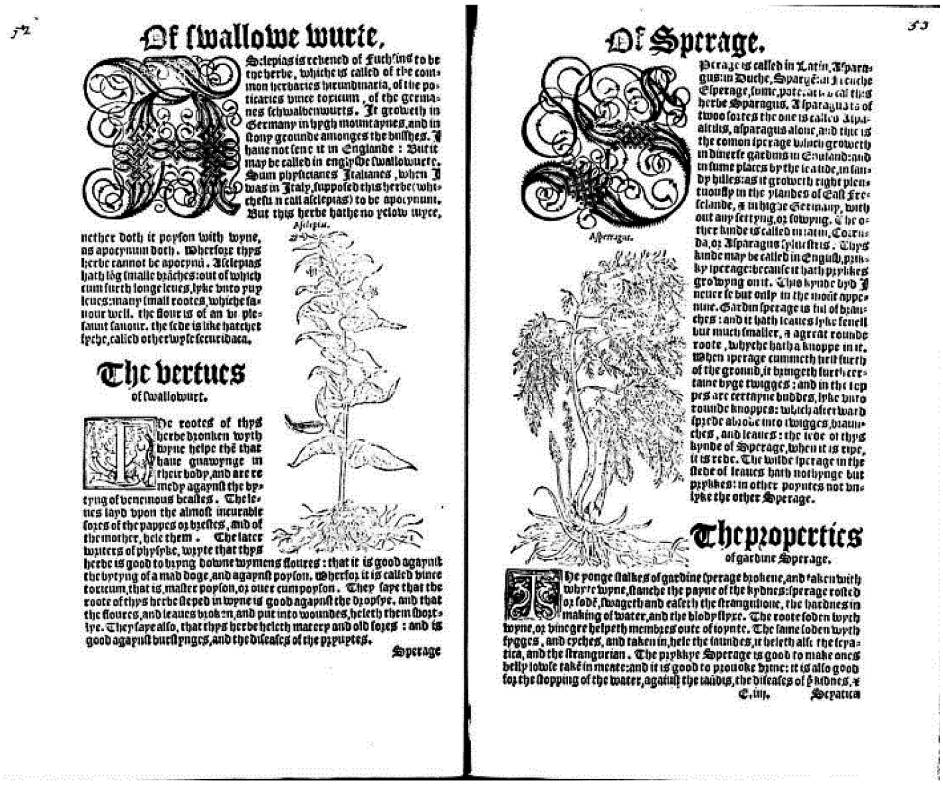


図 6　ミールドマンの印刷数と図版・装飾イニシャル使用の推移

来英したミールドマンも，図版印刷に大きなエネルギーを注ぎ込むようになる。ミールドマンの快進撃が始まった。印刷した 91 版のうち 66 版で装飾イニシャルが使われており，30 版で図版を使用している。アントワープでは 4 版しか図版を用いなかったにもかかわらず，ロンドンでは大著や中冊子に大きな図版が多い。この時代のミールドマンは明らかに意識的にコンパートメントや大きな図版を印刷物に盛り込み始めた。まだ一般的でなかった注を余白に記したり，正誤表をつけたりした。ミールドマンが時代の最先端の印刷業者であった証拠である。

中でも 1551 年に彼が印刷したターナーの『新本草書』は，著者や印刷者の図版印刷への意気込みを感じさせる例として注目に値する。



Of swallowe wurte.

Asclepias is reckened of Fuchsius to be the herbe, whiche is called of the common herbarics hirundinaria, of the poticaries vince toxicum, of the germanes schwalbenwurts. It groweth in Germany in hygh mountaynes, and in stony grounde amonges the bushes. I haue not seene it in Englande: But it may be called in englyshe swallowwurte. Sum physicianes Italianes, when I was in Italy, supposed this herbe whiche sum call asclepias) to be apocynum. But this herbe hathe no yelow wyre, nether doth it poyson with wyne, as apocynum doth. Wherfore thys herbe cannot be apocynū. Asclepias hath sig smalle bracches: out of which cum furth longe leues, lyke vnto ruy leues: many small rootes, whiche sauour well. the flowre is of an vn pleasaunt sauour. the fede is like hatchet lyche, called otherwyse securidaca.

Asclepias.

The vertues of swallowwurt.

The rootes of thys herbe dronken wyth wyne helpe thē that haue gnawynge in their body, and are remedy agaynst the bytyng of venemous beastes. The leaues layd vpon the almost incurable sores of the pappes or byestes, and of the mother, hele them. The later writers of physyke, wryte that thys herbe is good to bryng downe wymens floures: that it is good agaynst the bytyng of a mad dogge, and agaynst poyson. Wherfore it is called vince toxicum, that is, master poyson, or ouer cum poyson. They saye that the roote of thys herbe sleped in wyne is good agaynst the dropsye, and that the floures, and leaues broken, and put into woundes, heleth them shortlye. They saye also, that thys herbe heleth matery and old sores: and is good agaynst burstynges, and the diseases of the pyrytes.

Sperage

Of Sperage.

Sperage is called in Latin, Asparagus: in Duche, Sparge: in Frenche Esperage, some, pote, ali call this herbe Sparagus. Asparagus is of two sores the one is called Asparagus, asparagus alone, and this is the comon sperage which groweth in diuerse gardens in Englande: and in sume places by the seaside, in sandy hilles: as it groweth right plentuously in the plandes of Sall Freeslande, & in hygh Germany, wyth out any sertyng, or sowyng. The other kynde is called in latin, Corinda, or Asparagus sylustris. Thys kynde may be called in Englysh, pynky sperage: because it hath pynkes growyng on it. This kynde syd I neuer se but only in the moste noppe nunne. Gardyn sperage is full of bracches: and it hath leaues lyke fenell but much smaller, & a great rounde roote, wherfre hath a knoppe in it. When sperage commeth first furth of the ground, it syngeth fur the certaine syge twygges: and in the top pes are certayne buddes, lyke vnto rounde knoppes: which afterward spredde abroade into twigges, bracches, and leaues: the fede of thys kynde of Sperage, when it is rype, it is rede. The wilde sperage in the fede of leaues hath nothynge but pynkes: in other poynts not vnlyke the other Sperage.

Asparagus.

The propertiesof gardine Sperage.

The ponge stalkes of gardine sperage broken, and taken with wyne, stanche the payne of the kydnes: sperage rosted or sodē, swageth and easeth the stranguione, the hardnes in making of water, and the blody flyxe. The roote sodē wyth wyne, or vinegre helpeth membres oute of joynte. The same sodē wyth pygges, and eyches, and taken in, hele the sinnes, it heleth alse the lepatica, and the stranguria. The pyshlye Sperage is good to make ones belly lowse take in mente: and it is good to prouoke vryne: it is also good for the stopping of the water, agaynst the taudis, the diseases of the kidnes, &

Sepatica

EEBO の画像。クラリベイト社より掲載許可取得済み。

図 7 『新本草書』 STC 24365. E3^{v} and E4^{r}.

ミールドマンより以前に，英国で植物の図版を用いた印刷業者はいない。彼はバーゼル出版のレオンハルト・フックスの『植物誌』の図版を英国に導入したのだ[53]。ターナーの前著と同様，植物の名を 5 か国語で表記している。読者のために分かりやすさを追及したのだ。図版はそのサービスをさらに一歩進めた。彼はおそらく英国の読者に見せたかったのである。大陸の洗練された精巧な図版を。そして彼の技術力の高さを。宗教書以外の図鑑という視覚に訴える書で，彼はそれを実行したのだ。

ミールドマンはこの時代の印刷を牽引していた。国王御用達のグラフトンなどより，自由に印刷の可能性を模索・追及し，印刷の発展に大きく貢献したのである。彼は本の表現手段が文字だけではないと認識していた。図版量も多く，表現対象も宗教，時事，植物，楽譜と多岐にわたる。ミールドマンは英国への図版導入の最初の人物ではないが，図版に対して並々ならぬ思い入れがあった。彼はロンドンの書物の後進性を見て，図版

の効果と可能性を再認識したのではないだろうか。図版へのエネルギーの注ぎ方がアントワープ時代とは異なる。積極的な図版使用は明らかに意図的な決断であったと考える。

大物印刷業者は，図版が多くの読者獲得につながると気づいていた。特にミールドマンはカット挿入の有効性に強い関心を抱いていた。しかし多くのカットの挿入は 簡単ではない。図版を用いるには金が要る。経済的余裕がなければ図版の印刷はできない。ミールドマンは図版の開発に多大な投資を行っていたと考える。先進的印刷業者として活躍し大物印刷業者になるには，潤沢な資金が不可欠だった。デイの印刷活動からも，それは明白だ[54]。文中へのカットの挿入には高い技術が必要だ。多くの聖書の図版印刷を手掛けたクロムの下での修業が役に立った。ロンドンでの巧みな人脈活用に負うところもあったろう。ミールドマンが大量の図版を入手できた理由については，今後さらに研究の余地がある。推量だが来英の際，活字のみならず所蔵していた図版を持参した可能性は高い。また連れてきた職人や外国人教会に所属していた印刷業者から入手したのかもしれない。アントワープで出版業を継いだ義妹が，大陸からの図版供給に協力したかもしれない。様々な理由があったろうが，ミールドマンには図版への強い関心を実行に移す条件が整っていた。大量の図版を挿入した書物を次々と出版出来たのである。図版を掲載した書物の数も多いが，1 作品の中の図版の数も多い。当時の人々にはさぞ魅力的に映ったことだろう。図版の有効利用で，彼は書物に関心を持ち始めた広い層の人々と，その社会への接近を試みた。活字の工夫に加え，図版を読者とのコミュニケーションの道具と捉えたところに，ミールドマンの時代を読む才能があったのである。

d. 外国語の印刷

ミールドマンの卓越した技量は外国語の印刷に見ることができる。親方クロムはアントワープの同業者と共に，福音書をヨーロッパ中の言語で翻訳出版したと豪語した[55]。冒頭で述べたとおり，16 世紀の前半に翻訳が盛んになった。エドワード時代の出版物 1156 版のうち翻訳書は 345 版（29.8%）を占める。それに加えて，外国語の出版物が 153 版（13.2%）あった。両者を合わせると 498 版となり，全出版物の 43.1%に相当する。外国語の出版物は必ずしもその由来が外国とは限らないが，翻訳の多さもあり，英国が海外との交流を重視していたのは明らかである。この時代に出版された法律書は 154 版（13.3%），学術書が 127 版（11.0%）あり，外国語出版はこれらと比べて少なくはない。

表 5　エドワード時代の外国語書物の言語別出版数

印刷言語	版数／印刷業者	印刷業者の人数
ラテン語	91 版	12 人
	トマス・バーセレット，ジョン・デイ，リチャード・グラフトン，ジョン・ハーフォード，ニコラス・ヒル，ウィリアム・ミドルトン，スティーヴン・ミールドマン，ジョン・オズウェン，ウィリアム・パウエル，リチャード・トッテル，ウィリアム・ラステル，レイナー・ウルフ	
多国語	31 版	12 人
	トマス・バーセレット，ウィリアム・コープランド，リチャード・グラフトン，ジョン・ハーフォード，ニコラス・ヒル，ウィリアム・ミドルトン，スティーヴン・ミールドマン，ウィリアム・パウエル，リチャード・トッテル，レイナー・ウルフ，ジョン・ワイヤー，トマス・ゴルティエ	
フランス語	13 版	6 人
	トマス・バーセレット，トマス・ゴルティエ，ニコラス・ヒル，スティーヴン・ミールドマン，ウィリアム・パウエル，リチャード・トッテル	
オランダ語	8 版	3 人
	ニコラス・ヒル，ニコラス・ファン・デン・ベルヘ，スティーヴン・ミールドマン	
法律用フランス語	6 版	1 人
	ウィリアム・パウエル	
ウェールズ語	2 版	2 人
	リチャード・グラフトン，ニコラス・ヒル	
イタリア語	1 版	1 人
	スティーヴン・ミールドマン	
スコットランド英語	1 版	1 人
	ウィリアム・コープランド	

表 5 が示すように出版数が一番多い外国語は知識人の共通語のラテン語で，12 人が印刷している。そのうち 36 版（約 39.6%）をミールドマン，グラフトン，デイの 3 人が担当した。2 番目に多いのは複数の言語の書物で，言語関係が 15 版，宗教書が 4 版，ターナーの植物誌 2 版がこの範疇に入る。言語関係が多いのは注目に値する。これらは辞典，文法書や語学習得のための教材だ。翻訳に頼らず自ら外国語を直接読み，あるいは聞いて話す必要が生じたのだ。外国文化への関心とともに，実生活においても外国語を使用する機会が生まれた。フランス語は，フランス語宗教書の国王御用達だったトマス・ゴルティエが 6 版，ミールドマンとヒルが各 1 版，3 人で半分以上を印刷している。オランダ語は，ミールドマンとヒルでほとんどすべてを印刷した。うち 1 版はニコラス・ファン・デン・ベルヘとミールドマンの共同印刷である。次に印刷数が多かった法律用フランス語は，ウィリアム・パウエルが 1550 年まで印刷した。1552 年にトッテルが法

律書印刷の特許を獲得すると，多くの法律報告書をラテン語と共に 2 か国語で印刷するようになる。イタリア語の印刷はミールドマンの 1 版のみだ。外国語を積極的に印刷した業者は約 10 名で，みな大物印刷業者だった。時代の印刷・出版業者全体約 80 名の中では，ごく限られた業者だけが外国語を印刷したことになる。

一方で上記以外の言語は印刷数が極めて少ない。時代全体から見ればイタリア語の出版は，まだまだ例外的なものだった。これがエドワード時代の現実だ。そのような中で，ミールドマンは外国語印刷が 2 番目に多い業者だった。

表 6　主な印刷業者の外国語印刷数

（版）

印刷業者	外国語印刷数	印刷総数
リチャード・グラフトン	31	208
スティーブン・ミールドマン	18	87
ニコラス・ヒル	13	86
レイナー・ウルフ	12	36
ジョン・デイ	1	123
エドワード・ホイットチャーチ	0	75

ミールドマンはアントワープではオランダ語と英語の外にはスペイン語しか印刷していない。ロンドンで彼はラテン語を 9 版印刷した。版数こそグラフトンの 26 版には及ばないが，言語の種類はグラフトンの 4 か国語に対して，6 か国語と多かった。彼は多くの言語印刷の技術を身につけていた。外国人教会の最高責任者ジョン・ラスコーは英国で 8 版の著作を出版したが，すべてラテン語で執筆している。そのうち 5 版をミールドマンがラテン語で[56]，また彼の母語のオランダ語（STC 15260, USTC 442336）で印刷した。彼には外国語印刷に抵抗がなかった。

エリザベス時代に英国は積極的にイタリア文化の受容を行ない，異国の文化を自国に取り込む姿勢を示す。既にエドワードの社会には外国語のニーズが生まれていた。マーケットに敏感に反応する印刷業者は，それに応えるべく外国語の出版に意欲を燃やし始めていたのである。外国語印刷は英国の印刷業界にとっては最先端の領域であり，その進化は次の時代のさらなる発展への大きな布石となった。ミールドマンは外国語印刷においても時代をリードする存在だったのだ。

e. 印刷数の多さとジャンルの豊富さ

ミールドマンは印刷数でも卓越した手腕を発揮し，時代で第 3 位の印刷数を誇った。熱烈なプロテスタントのミールドマンにとって，ロンドンは商売と信念と技術を最大限に発揮できる場であった。既に述べたように，英国印刷の初期はもっぱら宗教書と法律

書の印刷が主流だった。エドワード時代ではこれらの出版は時代の総出版 1156 版のうち 836 版（72.3%）を占め，この時代の出版の大きな特徴を表している。

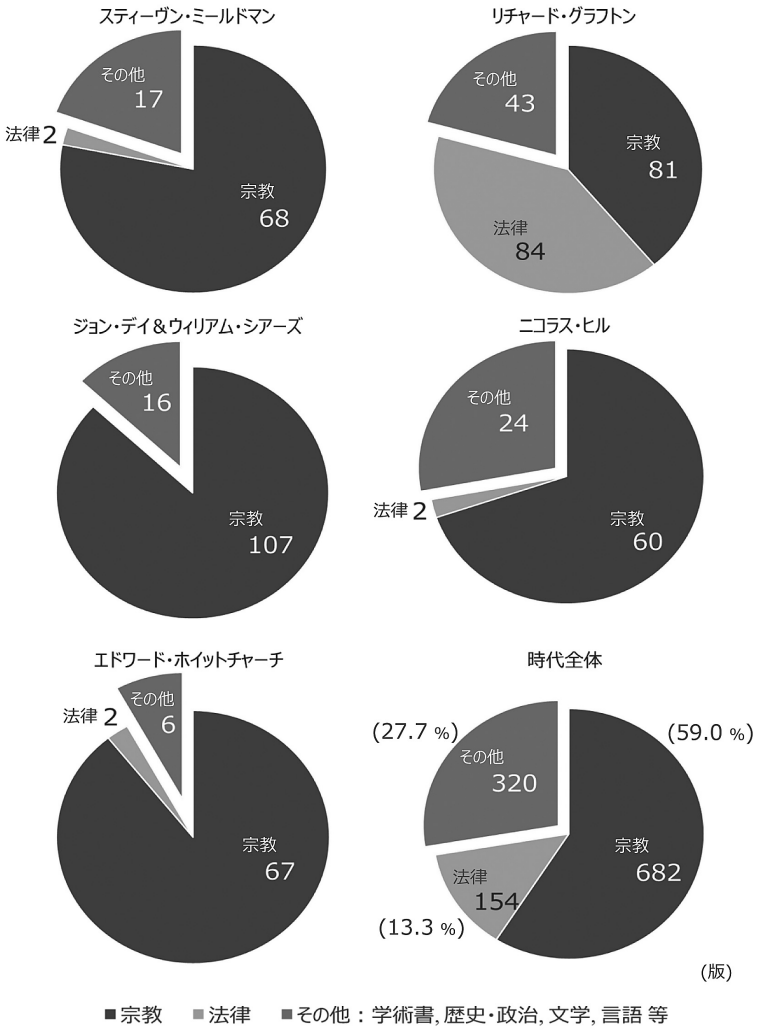


図 8　エドワード六世時代の大物印刷業者のジャンル別　印刷数

大物印刷業者の出版傾向を見ると，一様に宗教書の出版割合が高い。このジャンルは図 8 に示した 5 人の業者だけで 383 版あり，時代全体の出版数 682 版の 56.2%を占める。彼らが宗教書を集中して印刷していたことがわかる。宗教書出版は国策であり，法律書と並んで儲けの大きいビジネスだった。ミールドマンにとっても，プロテスタント本の印刷が最優先だった。プロテスタンティズム振興に使命を感じていた彼は大物印刷業者の傾向に近い。彼は政府とのつながりを強めていく。約 6 年半の英国滞在でミールドマンは大物印刷業者の仲間入りを果たしたのだ。

一方でこの時代のもう一つの特徴が，宗教・法律以外のジャンルも 320 版（27.7%）と大きな割合を占めていることである。図 8 の大物印刷業者の「その他」の印刷数の合計は，106 版であり，時代全体の「その他」の印刷数 320 版の 1/3 にも満たない。「その他」すなわち世俗的な書物は，大物業者以外の中小業者が担う割合が多かった。印刷全体の発展は大物印刷業者が牽引していたが，次の時代のトレンドの芽は中小業者の手によって育まれていたと考える。

中小業者による世俗的な書物の出版が多いことは，注目に値する。彼らは大物業者の宗教，法律書の独占により，他のジャンルに向かわざるを得なかった。しかしニーズがなければ出版は行われない。書物が人々の身近になり，本に幅広い内容を求める傾向が高まっていったのである[57]。世俗的なジャンルの印刷数の増大を支えたのは，中小印刷業者だった。人々の日常生活により直接的に関わるジャンルや，ヒューマニズムに裏打ちされた知的な書物へのニーズが社会で膨らんだのだ。ここに時代のありようが見える。中小印刷業者が一般社会のニーズに応えたことが，出版の発展に拍車をかけた。大物印刷業者の手が回らなかった領域を，中小印刷業者が担ったのだ。大物業者だけが次の時代を作ったのではなかった。エリザベス時代では，これらのジャンルが圧倒的に伸びていく。

3. テューダー朝におけるエドワード時代の位置づけ

エドワード時代はプロテスタンティズムを背景に印刷・出版が発展した。プロテスタンティズムは大陸の宗教改革の奔流と一体となり，宗教だけでなく国の意識を大きく前に推し進めた。短かったが，英国のプロテスタンティズムは世界における宗教改革の先頭に立った。宗教書には図版がふんだんに用いられ，多くの翻訳書や外国語の本も出版された。宗教，法律以外の印刷も全体の 1/4 を占めるまでに増加した。出版数が多くなったことで，中流階級にも書物が届くようになった。書物が広く国民に浸透したのだ。エドワード時代の最大の功績は，多くの人々に本を読み，知識を得，考える習慣を植えつけたことであった。これがエリザベス時代の文化興隆への種まきとなった。

カトリックのメアリー時代になって，英国は印刷・出版素材としてのプロテスタンティズムを失う。しかし人々の書物への意識と関心は，既に元へは戻らなかった。本は文化交流の重要な媒体である。エドワード時代に書物は上流階級だけでなく，中流階級にとっても「重要な媒体」となった。大陸からカトリック信者が戻るが，彼らは前の時代のプロテスタント信者ほど印刷・出版の動機や原動力にはならなかった。

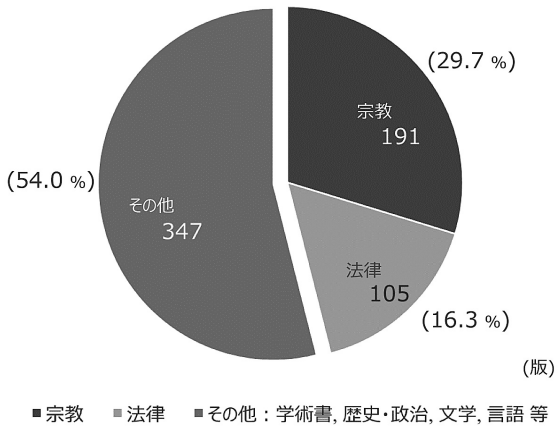


図 9　メアリー一世時代のジャンル別　印刷数（1553-1558）

メアリー時代の宗教書の出版は，総出版数 643 版の 1/3 にも満たない。宗教書の占める割合が減り，その他の世俗的な書物の占める割合が増加した。これはメアリーとその後のエリザベス時代を考えるうえで重要なポイントだ。印刷・出版の動機や原動力が宗教から離れ，世俗的な素材に流れ始めたのである。

エドワードに続くメアリーとエリザベスの時代の出版の動機と，書物に対する人々の意識の変化を探ることにより，英国ルネサンスを支えた出版というインフラのありようを明らかにしていくことが出来る。周知の通り，エリザベス時代に英国ルネサンスは花開き，出版はそれを支える重要なインフラだった。エドワード時代は，このインフラの整備に大きく貢献したのである。

エドワード時代には極端なカトリック排斥の傾向があった。プロテスタント一色の時代だったのだ。極端に偏った時代であったからこそ，多くのプロテスタントの印刷業者が活躍できたのだ。エドワードの時代の印刷・出版の発展は，世俗的な書物の印刷をも促し，後の時代の大きな布石となっている。しかし，エドワード時代における印刷・出版の発展の大きな原動力は間違いなく宗教であった。英国の印刷・出版は，エリザベス時代に突如として発展したのではなく，エリザベス時代以前に宗教により発展したのだ。

メアリー時代になって，時代はプロテスタントへの偏りをなくす。印刷の動機は宗教から離れていくものの，エドワード時代に培われた出版の発展が，後のエリザベス時代の英国ルネサンスのインフラとなる。これがエドワード時代に着目する意義である。印刷・出版の大きな飛躍がテューダー朝におけるエドワード時代の位置づけだ。スティーヴン・ミールドマンは，そのような時代を体現した印刷業者であった。

《注》

（1） 本論はSTC, ESTC, USTC, EEBOなどに基づいて調査・考察を行った。本研究分野の基本的資料であるこれらの資料と同様，現存する書物のみを対象とする。STC: *A Short-Title Catalogue of Books Printed in England*, *Scotland*, *and Ireland and of English Books Printed Abroad 1475–1640,* comp. by A. W. Pollard and G. R. Redgrave, 2nd edn, rev. and enlarged by W. A. Jackson and F. S. Ferguson, completed by Katherine F. Panzer, 3 vols（London: Bibliographical Society, 1986）; ESTC: *English Short Title Catalogue.* The British Library.〈http://estc.bl.uk〉[accessed 1 September 2022]; USTC: *Universal Short Title Catalogue,* comp. by Andrew Pettegree and others,〈https://www.ustc.ac.uk〉[accessed 1 September 2022]; EEBO: *Early English Books Online.*〈https://www.proquest.com〉[accessed 1 September 2022]. 出版年はこれらの資料および一般に認められている推定年を照合の上採用した。時代の境については判別できる書物は各時代に，不明なものは便宜上，1547年と1553年はエドワード時代，1558年はメアリー時代として集計している。

（2） ミールドマンの名前はSteven Mierdmanまたは Stephen Mierdman, Steven Mierdmans, Stephen Myerdmannとも綴る。

（3） *は共同作業による印刷を含む。本グラフは英国出版のみとする。

（4） Andrea Vesalius, *De humani corporis fabrica*（Basel: Oporinus, 1543）.

（5） Jost Amman, *Panoplia omniumilliberalium mechanicarum aut sedentariarum artium genera continens*（Frankfurt a.M.: Feyerabend, 1568）.

（6） Pietro Bembo, *Prose di m. Pietro Bembo nelle quali si ragiona della volgar lingua scritte al cardinale de Medici che poi è stato creato a sommo pontefice et detto papa Clemente settimo divise in tre libri*（Venice: Tacuino, 1525）.

（7） *Das Newe Testament*（Wittenberg: Lotter, 1522）. *Biblia*, *Altes und Newen Testament ausz Ebreischer und Griechischer Spraach, gründtlich verteutscht*（Frankfurt a.M.: Egenoff, 1534）.

（8） うち4版は英訳にラテン語が併記されている。STC 2821, 10440, 11440.2, 10447.

（9） 大物でもグラフトン，デイ，シアーズ，ホイットチャーチ，N. ヒル，パウエル，ウィリアム・コープランド，ウルフ，ウィリアム・ミドルトンは翻訳をしていない。彼らは印刷・出版に専念した。

（10） Andrew Pettegree, *The Book in the Renaissance*（New Haven and London: Yale University Press, 2010）, p. 161.

（11） *Den val der Roomscher Kercken*, *met alle haer afgoderye*, *waerby een yeghelick mach kennen eñ mercken*, 2版1553年（STC 21307.3）と1570年（STC 21307.5）. *Den Bibel in duyts, dat is, alle boecken des Ouden ende Nieuwen Testaments* はヤン・ガイリアートとの共訳である。1556年（USTC 408030）.

（12） クリストフェル・ファン・ルーレモンドやジョウァンネス・ヒレンなど。Frederick C. Avis, ‘Book Smuggling into England during the Sixteenth Century’, *Gutenberg Jahrbuch*（1972）, 180–87（p. 181）. Lotte Hellinga, *William Caxton and Early Printing in England*（London: British Library, *c.* 2010）, p. 173.

（13） 1536年以前のミールドマンの印刷は発見されていない。1536年の出版（NK 439）をミールドマンの印刷とする根拠は意見の一致を見ていない。NK: Wouter Nijhoff and Maria Elizabeth Kronenberg, *Nederlandsche Bibliographie van 1500 tot 1540,* 3 vols（The Hague, Nijhoff, 1965–71）. 本グラフは英国以外の出版も含む。

(14) Colin Clair, 'On the Printing of Certain Reformation Books', *The Library,* 5th S., 18 (1963), 275–87 (p. 277). クロムは 1545 年 1 月にまだ生存していたという説もある。H.F. Wijnman, 'The mysterious sixteenth-century printer Niclaes van Oldenborch: Antwerp or Emden?' in *Stvdia Bibliographica in Honorem Herman de la Fontaine Venoey,* ed. by S. van der Woude (Amsterdam: Hertzberger, 1966 [1968]), pp. 448–78 (p. 475). またミールドマンが後を引き継いだのは 1543 年から 1546 年の間とする説もあり，まだ最終的な合意を見ていない。Paul Valkema Blouw, 'The Van Oldenborch and Vanden Merberghe pseudonyms *or* Why Frans Fraet had to die', *Quaerendo,* 22 (1992), 165–90 (p. 171).

(15) Andrew Pettegree, *Foreign Protestant Communities in Sixteenth-Century London* (Oxford: Clarendon, 1986), p. 91. Clair, pp. 276–78.

(16) *Novum Testamentum Latinogermanum. Dat nieuwe testament in Latijn ende Duyts* (1539). USTC 400640.

(17) STC 4045, 4070.5, 4079.5. 本論では連続 3 版以上の STC 番号などは注に記載する。

(18) STC 2848, 10488, USTC 408477.

(19) STC 2836, 2836.5, 2837, 2842, 4045, 4070.5, 4079.5, 5889, 10488, 10808. STC 2066 はティンダルとの共訳。

(20) STC 2832, 2833, 2834, 2848.

(21) Clair, p. 277.

(22) Blouw, p. 171.

(23) Willem Heijting, 'Early Reformation Literature from the Printing Shop of Mattheus Crom and Steven Mierdmans', *Nederlandsch Archief voor Kerkgeschiedenis,* 74 (1994), 143–61 (p. 148).

(24) Blouw, ibid.

(25) Wijnman, p. 462.

(26) STC 16964, 16982, 21826.6.

(27) ミールドマンは来英の際，印刷業者のヘンリーとウィリアム・コーク兄弟，ゴッドフリー・ハツー，レーナード・ファンデア・アエを伴った。*Returns of Aliens Dwelling in the City and Suburbs of London from the Reign of Henry VIII to That of James I,* ed. by R. E. G. and E. F. Kirk, 4 vols (Aberdeen: Aberdeen University Press, 1900–08), I (1900), 161. ランバート・ブレイとコーネリアス・クローゼンもミールドマンの助手として働いていた記録が残っている。Ibid., 203, 209.

(28) 1548 年にミールドマンの印刷とされているオシアンダーの世界の終わりについての著作 (STC 18877) とベイルのローマカトリックの勧めへの反論 (STC 1274a) は，いずれもアントワープの出版である。ミールドマンの義妹ヒェルトルートが 1546 年に書籍販売の許可を獲得してクロムの出版業を継いでいるので，両書物のアントワープ出版は必ずしもミールドマンの渡英時期を特定するものではない。ミールドマンがジャッグのために 1548 年に印刷したティンダル版の新約聖書 (STC 2852) も奥付には出版地がロンドンとあるが，アントワープで印刷されたとされている。

(29) いずれの書物もミールドマンの名前は印字されていない。STC の推測とクレアの主張にもとづく。Clair, p. 277.

(30) STC 470, 470.1, 1297, 2852, 11383, 17795, 17796.

(31) STC 6083, 11884, 24359, 24784.

(32) STC 822, 16964, 16982, 20843, 20849, 21826.6.

(33) その殉教の様は，すべてを信用するわけにはいかぬが，フォックスによって『殉教列伝』(1563) に描かれている。STC 11222.

(34) Andrew Pettegree, *Marian Protestantism. Six Studies* (Aldershot: Scolar, 1996), p. 3. リチャード・トッテルのような例外もある。

(35) STC は 1554 年に 16571a と 17863.5 を掲載している。名前は記されていないが，E. ファン・デル・エルヴェと組んで印刷を続けたとしている。STC 16571a の標題紙には 'Ghedruckt buyten Londen [i.e. Emden] : Doer Collinus Volckwinner [i.e. N. Hill and E. van der Erve], Anno, 1554' とある。STC 17863.5 の標題紙にも 'Ghedruckt buyten Londen: By Collinus Volckwinner, anno 1554' とある。

(36) 図 8 の時代全体の印刷数グラフ参照。

(37) 奥付では 'Imprinted at Baſyll the yeare of owre lorde. M. D. xliij. the xiiij. of September' と印字されているが，クレアとウインマンは活字からクロムまたはミールドマンの印刷としており，STC もミールドマンの印刷としている。Clair, p. 282. Wijnman, p. 461.

(38) John Guy, *Tudor England* (Oxford: Oxford University Press, 1990), p. 203.

(39) 奥付では 'Imprinted at London : By John Day and Wyllyam Seres, dwellynge in Sepulchres Parish at the signe of the Resurrection a litle aboue Holbourne Conduite' となっているが，今ではミールドマンの印刷とされている。紋章付きの標題紙のコンパートメントは 1548 年からデイとシアーズが使いだしたものだ。ここでもデイとシアーズとの人脈が活きており，彼らがミールドマンをサポートしていたことがわかる。

(40) STC 24354, 24359, 24365, 24368.

(41) STC 1273, 1273.5, 1275, 1290, 1294, 1297, 1298, 15445, 22992.

(42) ミールドマンは 1548 年に 13 箇条を論駁するクロウリーの著作を印刷したと考えられる (STC 6083)。アン・アスキューの処刑を描いた特注の木版画を挿入しているが，この図版の大きな反響が，後述するように，彼に図版の重要性を再認識させたのかもしれない。

(43) *Calendar of the Patent Rolls Preserved in the Public Record Office. Edward VI,* ed. by J. G. Black and others, 6 vols (London: His Majesty's Stationery Office, 1924–29), III (1925), p. 314. *Returns,* I, 207, 209.

(44) 1553 年だけで 9 版の法律関係の報告書を印刷した。

(45) E. Gordon Duff, *A Century of the English Book Trade: Short Notices of All Printers, Stationers, Booksellers, and Others Connected with it from the Issue of the First Dated Book in 1457 to the Incorporation of the Company of Stationers in 1557* (London: Bibliographical Society, 1948), p. 171.

(46) Bryan P. Davis, 'John Day', in *Dictionary of Literary Biography: The British Literary Book Trade, 1475–1700,* ed. by James K. Bracken and Joel Silver (Detroit: Gale, 1996), CLXX, p. 81.

(47) キャクストンは現存している 100 版の印刷物のうち，19 版で 381 の挿絵を用いている。Edward Hodnett, *English Woodcuts, 1480–1535* (Oxford: University Press, 1973), p. 1.

(48) T. H. Darlow and H. F. Moule, *Historical Catalogue of Printed Editions of The English Bible 1525–1961,* ed. by A. S. Herbert (London: British and Foreign Bible Society, 1968), No. 34. 以降 DMH と記す。

(49) Ruth Samson Luborsky and Elizabeth Morley Ingram, *A Guide to English Illustrated Books 1536–1603,* Medieval and Renaissance Texts and Studies, 2 vols (Tempe, Arizona: Arizona State University Press, 1998), I, pp. 92–96.

(50) マシュー訳聖書の図版はクロム自身 STC 2836, 2842 で再使用しており，ミールドマンも STC 2077, 2867 で用いている。

(51) *The Byble in Englyshe that is to saye the Content of All the Holy Scrypture, Both of ye*

Olde and Newe Testament, Truly Translated after the Veryte of the Hebrue and Greke Textes, by ye Dylygent Studye of Dyuerse Excellent Learned Men, Expert in the Forsayde Tonges（Paris: Regnault; London: Grafton and Whitchurch, 1539）. STC 2068.

（52） ふたりはこれらの木版画を再版で幾度も使用した。エドワード時代では，ヒルやミールドマンも多くのカットをこの版から使用した。

（53） Leonard Fuchs, *De historia stirpium*（Basel : Isengrin, 1542）. USTC 602520.

（54） サフォーク州のリトル・ブラッドレー教会にあるデイの銘板に「デイはその富を印刷につぎ込んだ」と刻まれている。C. L. Oastler, *John Day, the Elizabethan Printer*（Oxford: Oxford Bibliographical Society, 1975）, p. 4.

（55） Wijnman, p. 462.

（56） STC 4042.4, 15259, 15263.

（57） 当然大物印刷業者も世俗的な書物に対する時代のニーズを感じていたに違いない。ミールドマンも『ユートピア』のような時代の人文主義精神を表す書物や，ヨハン・カリオンの世界史（STC 4626），セバスチャン・ミュンスターの『コスモグラフィア』（STC 18244）など，時代が関心を示す書物を 17 版も印刷した。

（原稿受付　2022 年 10 月 25 日）